－所蔵作品紹介－

末武　英一　SUETAKE Eiichi

Blue Silhouette 89-0592

作品データはこちら

末武英一は北海道上川町生まれで、岩手大学教育学部特設美術科専攻科を修了した。1980年代に入ってから旭川を拠点にシルクスクリーン版画で活躍し、モダンアート展などの公募展、プリント・アドベンチャーなどのグループ展、「北海道の美術」展（北海道立近代美術館）、「版画の新世代」展などの企画展、クラコウ国際版画ビエンナーレ（ポーランド）などのコンペ展等に出品してきたほか、個展も1981年からはほぼ毎年行うなど、現代アートの多彩な方面に登場している。

彼は初期から影や残像をテーマに制作してきた。最初の頃の作品にブルーのシルエットシリーズがあり、その後レティナ（網膜）シリーズでの空間的試みを経て、このブルー・シルエットシリーズが生まれた。青や銀の色の帯が複雑にうねり、反転し、表裏が別れたり置換されたりする。暗い空間の中で不安定なゆらぎを見せながら絶えず変化するその帯の一瞬の姿は、一つの生命体のようであり、また、世の中のさまざまな虚実を含んだ世界にも対応しそうである。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より